

2016 年度

エコアクション21 環境活動レポート



活動期間

平成 28 年 (2016 年) 4 月 1 日 ~ 平成 29 年 (2017 年) 3 月 31 日

エコアクション 21 登録・認証番号 0000088

発行日 2017 年 11 月 1 日

初回認証日 2004 年 12 月 22 日

更新日 2016 年 12 月 22 日

株式会社アラオ

2017 年 11 月 1 日

目次

1. ご挨拶	2
2. 環境方針	3
環境方針	3
3. 組織概要	4
4. 環境経営システムの運営体制	5
5. 環境目標と実績	6
5. 1 環境負荷の実績推移	7
6. 環境負荷の詳細	8
6. 1 二酸化炭素排出量	8
6. 2 廃棄物（一般廃棄物と産業廃棄物）	8
6. 3 有価物およびリサイクル資源	9
7. 環境負荷の詳細	10
7. 1 本年度環境活動計画と評価	10
7. 2 次年（2017年度）環境活動計画	11
8. 環境活動記録	12
8. 1 近隣清掃活動	12
8. 2 廃油流出事故訓練	12
8. 3 設計開発部 メカ設計課活動記録	13
8. 4 製造部 製造課活動記録	15
8. 5 営業部 営業課活動記録	17
9. 環境関連法規等の遵守状況の確認および評価の結果	18
10. 代表者による全体評価と来年への展望	20
10. 1 取り組みへの評価	20
10. 2 2017年度への展望	21

1. ご挨拶

株式会社アラオは、半導体製造装置を設計・製造する、エネルギー少消費型会社です。

地球環境の保全のために、2004年にエコアクション21を取得し、地球環境への負荷を少なくする事を心がけてまいりました。2015年には「EA21 認証・登録制度 10周年記念式典」にて長年のエコアクション活動に対して感謝状をいただきました。さらなる環境への取り組みを目指して、2016年度の環境活動レポートを発表いたします。



2017年11月1日

株式会社アラオ

代表取締役社長 荒尾 淳

2. 環境方針

環境方針

現在の大量生産・大量消費・大量廃棄の社会経済システムは、自然環境に多大な負荷をかけ続け、このままでは人類そのものの存在が脅かされる可能性もあります。

そのため社会を「最適生産・最適消費・最適廃棄」な社会に変え、持続可能な循環型社会へと作り変えなければなりません。私たち「株式会社 アラオ」は以下の環境方針のもと、環境とどうかかわっているか（関係しているか）ということを考え、環境を保全するための活動を実行して地球市民としての役割を果たすことを宣言するものです。

<基本理念>

アラオは、その企業理念に基づき、環境との共生・調和、環境への取組みを最重要課題として認識し、全社一丸となって環境との共生・調和に配慮した事業活動に取組み、環境負荷を継続的に削減していきます。

<環境方針>

アラオは省力機器の設計製作および金属機械加工を事業の柱とし、設備機械や工場建屋内の空調などの動力源として電力を使用しています。電力や原材料を含め環境への負荷を削減するために以下の取組みを行います。

- ① 全社内の電気使用のあり方を見直し、製造工程や空調での省エネルギーを実現し、二酸化炭素の削減を推進します。
- ② 機器の設計工程・部品の製作工程および営業活動を見直して、省資源化を実現し、環境にやさしい製品の提供に努めます。同時に産業廃棄物の削減やリサイクルを推進します。
- ③ 電気材料や機械材料を適正に選択し、事務処理の効率化を図り購入量の削減およびグリーン購入を推進します。
- ④ 水の使用を削減し、排水経路を管理して環境汚染の発生を防ぎます。
- ⑤ 化学物質の使用や取扱について、適正管理をします。
- ⑥ 環境関連法令・規則・協定およびお客様の要求事項を遵守します。
- ⑦ 環境活動レポートを公表し、地域で環境活動を実施するなど、地域との環境コミュニケーションに積極的に取組みます。

制定日 2003年 11月 17日

改訂日 2011年 2月 15日 第②項目追加

改訂日 2011年 11月 10日 第⑤項目追加

株式会社 アラオ
代表取締役社長

荒尾 淳

3. 組織概要

□ 事業所名 および 代表者名

株式会社アラオ

代表取締役社長 荒尾 淳

□ 所在地

〒861-4144 熊本県熊本市南区富合町釈迦堂388

□ 事業の概要

- ◆ 半導体関連省力機械の設計・製作・改造・保守
- ◆ 各種省力機器の設計製作
- ◆ 省力機器制御ソフトウェア開発
- ◆ 金属機械加工
- ◆ 板金、溶接加工

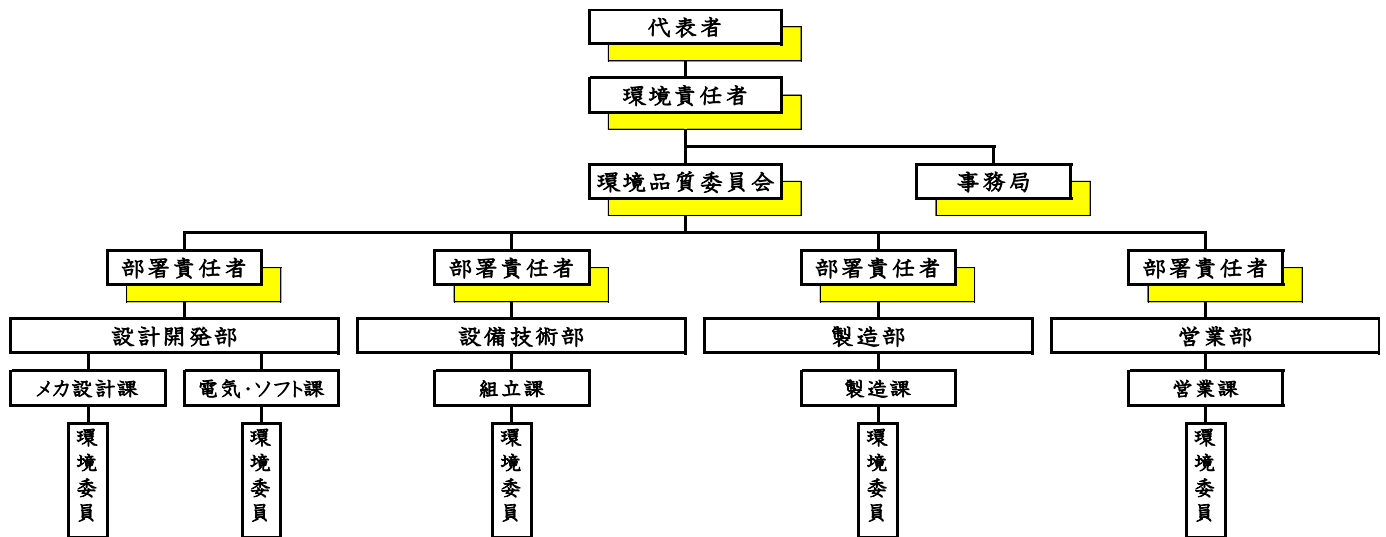
□ 事業の規模 (2016年)

- ◆ 年間売上高 5億円
- ◆ 従業員数 43人
- ◆ 床面積 2,068 m²
- ◆ 敷地面積 6,604 m²

□ 環境管理責任者氏名 および 担当者連絡先

- ◆ 代表責任者 代表取締役社長 荒尾 淳
- ◆ 環境管理責任者 営業部 山本 義郎
- ◆ 環境担当者 EA21 推進事務局 船津 誠司
- ◆ 連絡先 電話 096-358-7010
FAX 096-358-8045
URL <http://www.araotech.jp/>
e-mail arao@araotech.co.jp

4. 環境経営システムの運営体制



- ◆ 代表者
 - 1 環境責任者をはじめ必要な責任者の任命
 - 2 EA21 の構築、運用、維持に必要な経営資源の準備
 - 3 環境方針の制定
 - 4 EA21 全体の見直しを行い、必要に応じて改定を指示

- ◆ 環境責任者
 - 1 経営資源の合理化、効果的な運用を図り、環境委員会を運営する。

- ◆ 環境品質委員会
 - 1 環境責任者主催で月 1 回開催

- ◆ 事務局
 - 1 環境責任者の補佐
 - 2 EA21 に関する実務全般

- ◆ 部署責任者
 - 1 各部署内の環境活動の指導および実行責任

- ◆ 設計開発部・設備技術部・製造部・営業部 環境委員
 - 1 各部署内における環境活動実行委員

5. 環境目標と実績

項目	西暦	2013年度		2016年度			基準年比較		
	平成	25年度		28年度	達成率				
管理実施項目	単位	実績値	目標値	実績値	目標/実績	評価	削減率	評価	
二酸化炭素 排出量	トン	236.612	182.182	173.219	105.17%	○	73.21%	○	
	売上係数(百万円)	340.94	306.70	352.07	87.11%	×	103.26%	×	
使用電力量	MWH	362.88	276.70	257.64	107.40%	○	71.00%	○	
	売上係数(百万円)	522.88	465.82	523.66	88.95%	×	100.15%	×	
ガソリン消費量	L	6193.81	5333.00	6390.77	83.45%	×	103.18%	×	
	売上係数(百万円)	8.92	8.98	12.99	69.13%	×	145.55%	×	
灯油消費量	L	60.00	73.00	180.00	40.56%	×	300.00%	×	
	売上係数(百万円)	0.09	0.12	0.37	32.43%	×	427.97%	×	
一般廃棄物 (塵芥のみ)	Kg	476	414	338	122.67%	○	70.90%	○	
	売上係数(百万円)	0.69	0.70	0.69	101.45%	○	100.60%	×	
産業廃棄物 (廃油・液・プラ)	Kg	6,682	8,115	4,915	165.11%	○	73.56%	○	
	売上係数(百万円)	9.63	13.66	9.99	136.74%	○	103.76%	×	
紙使用量	A4枚数	211,718	185,157	63,000	293.90%	○	29.76%	○	
	売上係数(百万円)	305.07	311.71	128.05	243.43%	○	41.97%	○	
水使用量	立方メートル	553	487	542	89.85%	×	98.01%	△	
	従業員数(人)	13.17	10.59	12.32	85.96%	×	93.57%	△	
売上高	百万円	694	594	492	82.83%	×	70.89%	×	
	従業員数(百万円/人)	16.52	12.91	11.18	86.60%	×	67.66%	×	
社員数	人	42	46	44	95.65%	△	104.76%	○	
業務改善	メカ設計課	図面不良率	※2	10.0%	3.6%	277.78%	○	※2	※2
	電気・ソフト課	発注不良件数	※2	20	20	100.00%	○	※2	※2
	設備技術部	始業前点検	※2	100.0%	100.0%	100.00%	○	※2	※2
	製造部	加工不良率	※2	1.00%	1.10%	90.91%	△	※2	※2
	営業部	失注率	※2	35.0%	31.1%	112.54%	○	※2	※2
全社	クレーム件数	10	36	6	600.00%	○	60.00%	○	
		基準年	2016年度・環境実績総合評価						

排出係数＝九州電力(2013年度)
0.613kg-CO2/kWh

評価基準(%)	0-89	90-99	100-
	×	△	○

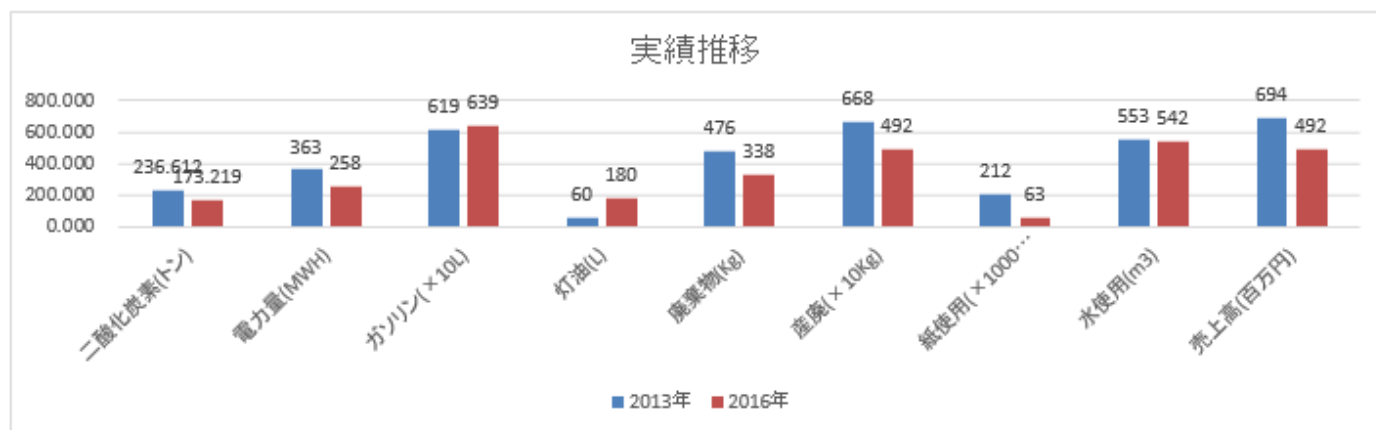
※1 実績/目標
※2 2015年度より基準変更のため

基準年に比較すると売り上げが2億円減少したために、売上比較が軒並み×になっています。本来は年間目標を達成している項目ですが残念な結果になっています。地震の影響での受注減が相当ひびいていることがわかります。なお、ガソリン消費量増加は遠距離ユーザー対応と社用車の経年使用によるものと思われます。

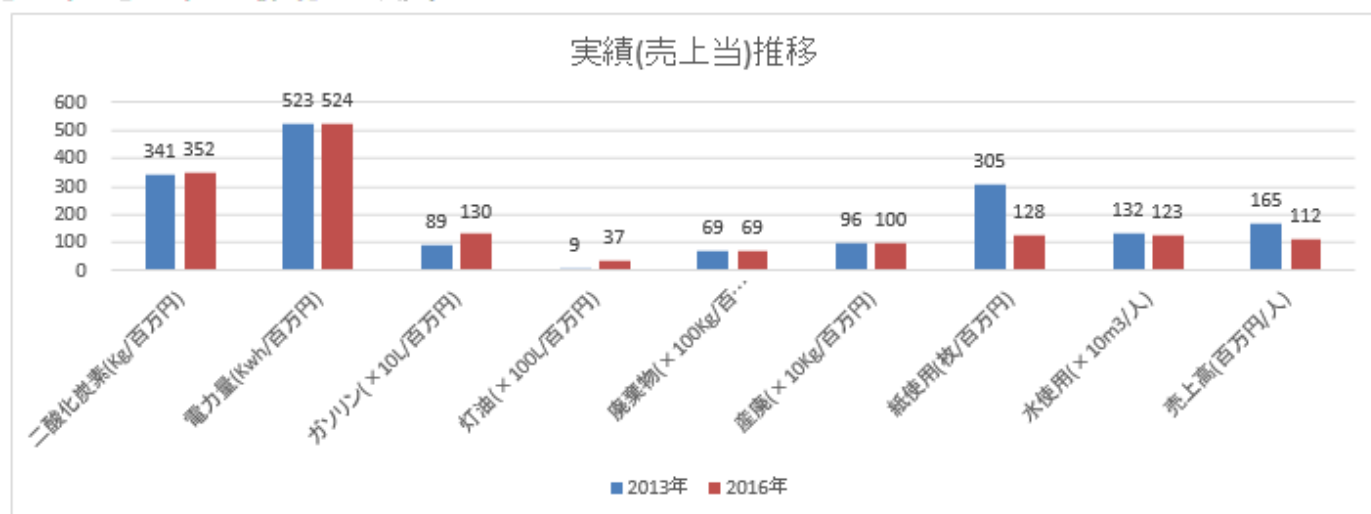
5. 1 環境負荷の実績推移

それぞれの項目の実績値を基準年(2013年度)と比較してみました。

2013年 - 2016年の実績推移



2013年 - 2016年の実績(売上当)推移



各項目とも実績値としてはほぼ減少していますが、売上当りでの実績が伴っていない状況となっています。今後はより効率的な業務改善を行うことで、売り上げ増大とともに環境負荷軽減を目指していきます。

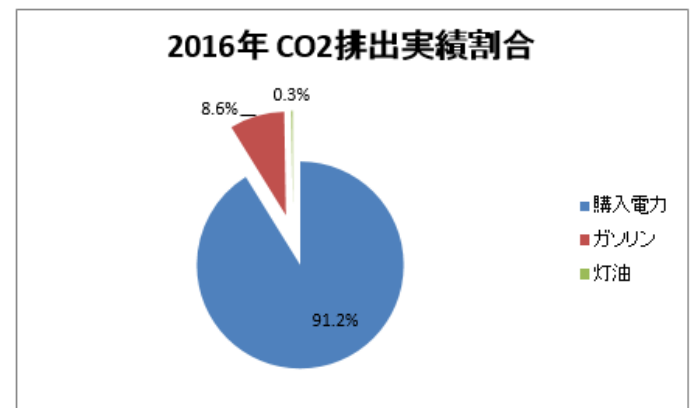
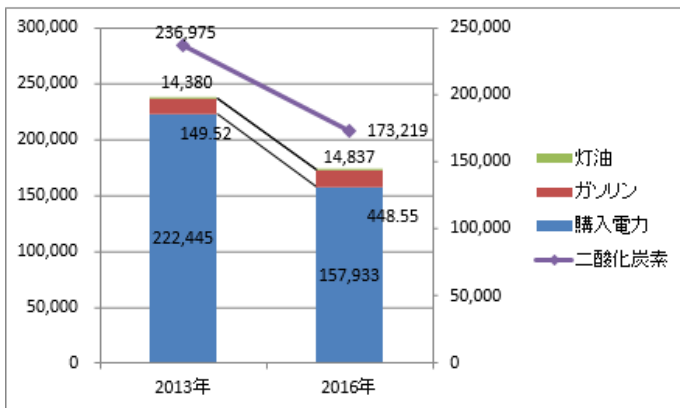
6 環境負荷の詳細

6.1 二酸化炭素排出量

2016年度の二酸化炭素排出量実績は173トンでしたので2013年度との比較では27%減となります。二酸化炭素排出実績のほとんどが電力消費量で占めており、これを抑えられた結果と考えられます。

2013年 - 2016年の実績推移

CO ₂ 排出実績	2013年	2016年
購入電力(Kg-CO ₂)	222,445	157,933
ガソリン(Kg-CO ₂)	14,380	14,837
灯油(Kg-CO ₂)	149.52	448.55
合計(Kg-CO ₂)	236,975	173,219

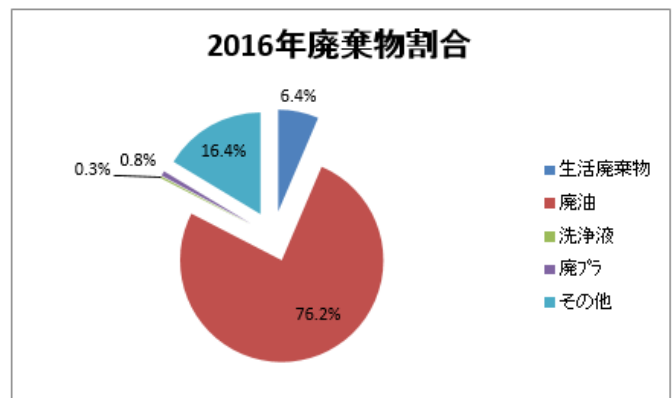
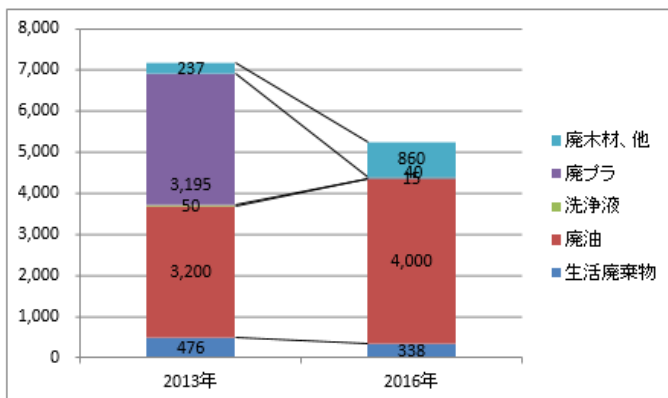


6.2 廃棄物（一般廃棄物と産業廃棄物）

2016年度の廃棄物送料は 5,200Kg です。ほとんどが廃油となっています。

2013年 - 2016年の実績推移

廃棄物実績		2013年	2016年
一般	生活廃棄物(Kg)	476	338
産廃	廃油(Kg)	3,200	4,000
マニフェスト 対象物	洗浄液(Kg)	50	15
	廃プラ(Kg)	3,195	40
	廃木材、他(Kg)	237	860
合計(Kg)		7,158	5,253

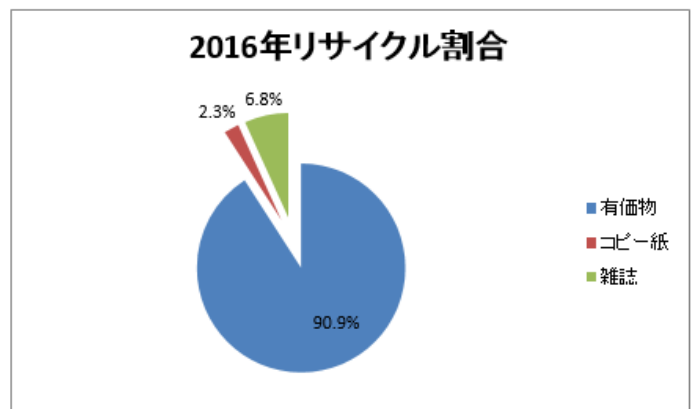
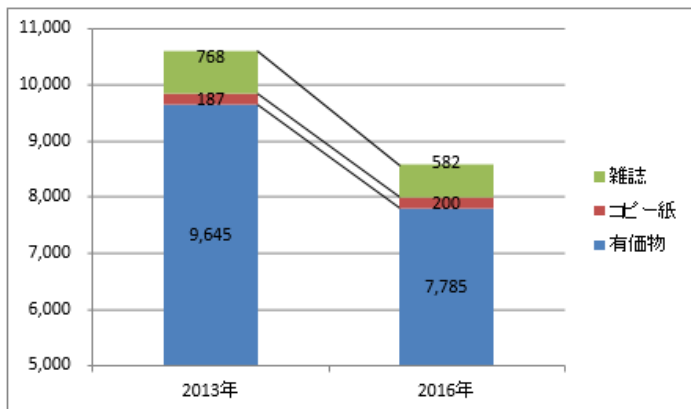


6. 3 有価物およびリサイクル資源

当社の業務内容は様々な金属素材から製品を製作するものであり、金属を加工する際に多くの金属くずが発生します。ただし金属くずは有価物として引き取ってもらっており、最終的には製鉄の材料にリサイクルされています。それ以外でも使用済みのコピー用紙、雑誌などは古紙業者に回収を依頼し、トイレットペーパーなどの材料としてリサイクルされています。そのため有価物および紙の約 8,500Kg は 100%リサイクルされています。なお、有価物の実績が 2 トン減っているのは素材の金属購入自体が減っているためです。

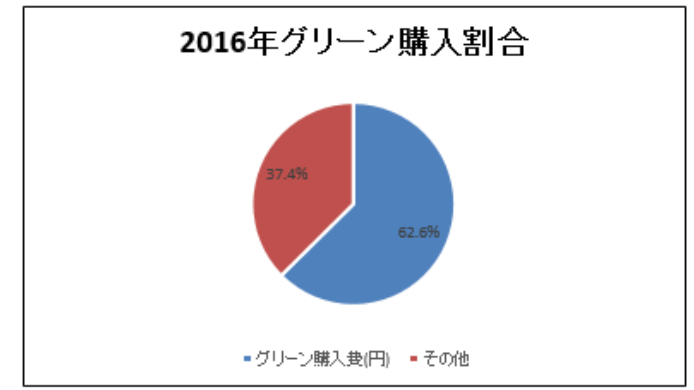
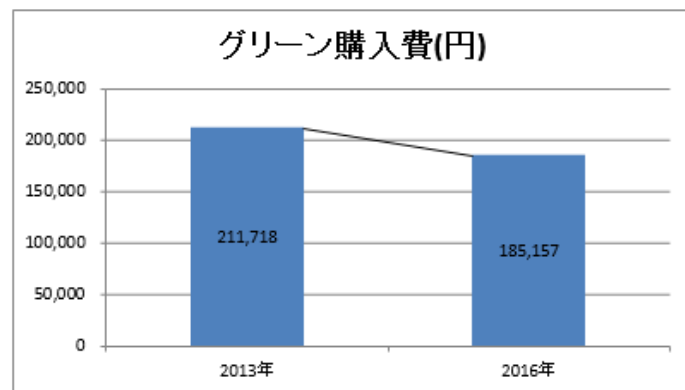
2013年 - 2016年の実績推移

リサイクル実績	2013年	2016年
有価物 (Kg)	9,645	7,785
コピー紙 (Kg)	187	200
雑誌 (Kg)	768	582
合計 (Kg)	10,600	8,567



2013年 - 2016年の実績推移

	2013年	2016年
グリーン購入費実績 (円)	211,718	185,157



グリーン購入費は基準年と比較すると減少しておりますが、全体の購入量の 60%以上を占めており積極的にグリーン購入を心がけるようにしています。今後の課題は全体量に占めるグリーン購入の割合をいかにあげるかです。

7. 環境負荷の詳細

7. 1 本年度環境活動計画と評価

	項目	目標達成手段	活動計画案	評価
1	環境システム見直し	EA21の指針に沿い、見直す	見直し	○
2	二酸化炭素排出量削減	電灯やOA機器の節電	毎日実施	○
			昼休み中の消灯、パソコン電源Off	○
			社内の蛍光灯をLED化	◎
		冷房27度、暖房20度の設定	毎月パトロールで遵守状況確認	◎
		冷暖房機器フィルターを年2回清掃	年2回実施	◎
	エコドライブの推進	社用車の走行距離と給油を記録	◎	
3	廃棄物の削減	ゴミの分別の周知徹底	可燃物、不燃物などの仕分け	◎
		資源ごみはリサイクルして活用	コピー紙、新聞紙などはリサイクル	◎
4	紙使用の削減	電子文書の活用	社内保存用資料は電子化を推進	○
5	水使用の削減	節水の表示と周知徹底	節水表示で個人の意識向上	○
			実用に耐えられる程度に元栓を絞る	◎
6	環境法令の遵守	マニフェスト発行、法令遵守の見直し	マニフェスト発行、法令遵守の見直し	○
7	近隣の環境維持	環境清掃の実施	3月に実施	◎
8	環境コミュニケーション	環境レポートの配布	当社ホームページに環境レポートを掲載	◎
9	環境事故想定訓練	油などの流出想定訓練	3月に実施	◎
10	環境データの収集	毎月電力、水、紙などの消費量測定	毎月始めに収集	◎
11	グリーン購入推進	グリーン購入の推進	事務用品以外にも推進	△
12	設計工程の改善	設計資料・カタログの整理	随時担当者がファイリング	○
		図面不良件数の削減	図面不良率5%以下目標	△
13	組立工程の改善	組立て工数の削減	追加工、部品製作不備のフィードバック	△
		組立て装置の品質向上	全装置に対する検査記録書登録	◎
		組立室の安全確保	クレーンとシャッターの日常点検実施	◎
14	製造工程の改善	加工不良の削減	不良発生の根本原因追究と標準化	○
			ヒューマンエラーの削減	○
		加工機械の稼働時間向上	加工プログラム作成の専従化	◎
			切粉回収の自動化装置導入	◎
			浮上油除去の自動化装置導入	◎
	部品加工の設計改善提案提出	○		
15	営業の改善	社用車の燃費向上	毎月末に燃費測定	◎
		失注率の低減	失注率35%以下目標	◎

7. 2 次年（2017年度）環境活動計画

	項目	目標達成手段	活動計画案
1	環境システム見直し	EA21の指針に沿い、見直す	10月に見直し
2	二酸化炭素排出量削減	電灯やOA機器の節電	毎日実施
		冷房27度、暖房20度の設定	昼休み中の消灯、パソコン電源Off
		冷暖房機器フィルターを年2回清掃	毎月パトロールで遵守状況確認 年2回実施
3	廃棄物の削減	ゴミの分別の周知徹底	可燃物、不燃物などの仕分け
		資源ごみはリサイクルして活用	コピー紙、新聞紙などはリサイクル
4	紙使用の削減	電子文書の活用	社内保存用資料は電子化を推進
5	水使用の削減	節水の表示と周知徹底	節水表示で個人の意識向上
			実用に耐えられる程度に元栓を絞る
6	環境法令の遵守	マニフェスト発行、法令遵守の見直し	マニフェスト発行、法令順守の見直し
7	近隣の環境維持	環境清掃の実施	10月に実施予定
8	環境コミュニケーション	環境レポートのHP掲載	当社ホームページに環境レポートを掲載
9	環境事故想定訓練	油などの流出想定訓練	10月に実施予定
10	環境データの収集	毎月電力、水、紙などの消費量測定	毎月始めに収集
11	グリーン購入推進	グリーン購入の推進	全体に占めるグリーン購入割合の向上
12	設計工程の改善	メカ図面不良件数の削減	流出図面不良率5%以下目標
		装置製作ロスを“ゼロ”にする	電気不具合件数2件/月以内目標
13	組立工程の改善	組立て作業の効率化	見積工数作業を80%で実現化
14	製造工程の改善	加工不良の削減	加工不良率0.75%以下目標 ヒューマンエラーの削減
		加工機械の稼働時間向上	MCの無人稼働推進 浮上油除去の自動化装置導入 部品加工の設計改善提案提出
		単品売り上げ拡大	単品売り上げ月150万円以上目標
		客先クレームの削減	加工個数に対してのクレーム数0.05%以下
		見積もり件数アップ	客先面談を150人以上/月行う
15	営業の改善	コピー使用枚数削減	前年実績の3%削減目標
		見積もり件数アップ	客先面談を150人以上/月行う

8. 環境活動記録

8. 1 近隣清掃活動



8. 2 廃油流出事故訓練



8. 3 設計開発部 メカ設計課活動記録

メカ設計課では、慢性的に発生している図面不良による損失を削減すべくデータ収集から不良削減に至るまでの活動を行いました。その活動実績を報告します。

1) 活動テーマ[図面不良の低減]

2) 活動目標 [図面不良 3%以下]

3) 活動成果

① 不良統計を取りながら、毎月どの程度出図を行っているのか、どのような不良が発生しているか集計を行いました。(図1、図2参照)

不良率の集計に際しては図面不良チェックシートを作成、運用データ収集を行いました。

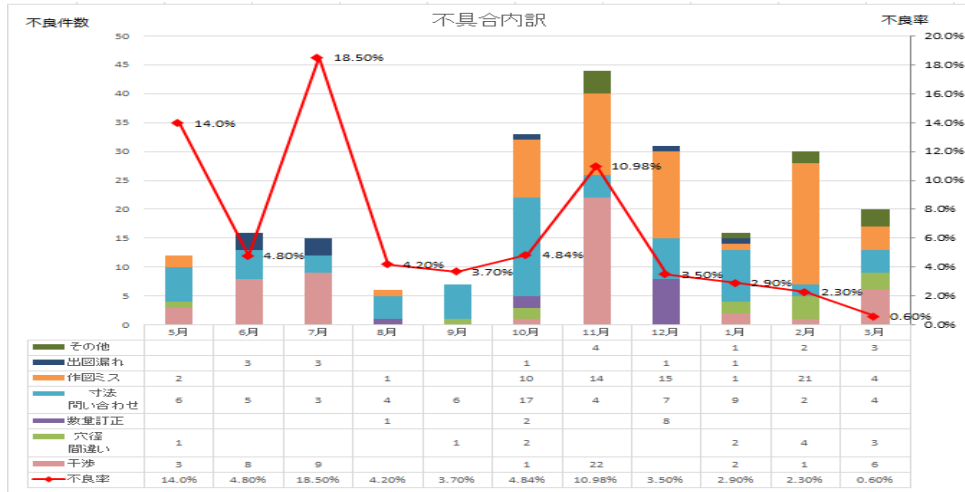


図1 不良数、不良率、不良内訳の年間統計

日付	出図枚数合計	干渉	穴径間違い	数量訂正	寸法問合せ	作図ミス	出図漏れ	改善要望	その他	不具合枚数合計
4月	27			2	4		2	21		8
5月	86	3	1		6	2		4		12
6月	327	8			5		3	5	1	17
7月	92	9		1	3	1	2	4	1	17
8月	144			1	2	1		2		4
9月	243		1		6	2		8	5	14
10月	681	1	2	2	15	10	1	5	5	36
11月	419	22			4	14		28	6	46
12月	880				7	15	1	19		23
1月	543	2	2		9	1	1	4	1	16
2月	1307	1	3		1	23			2	30
3月	3488	6	3		4	2		1	6	21
合計	8217	52	12	6	66	66	71	101	27	244

図2 年間総出図枚数及び各設計不良の詳細

② 上記不良率の2016年度統計は、総不良件数/総出図枚数で算出した結果**2.9%**となりました。

2016年度目標の3%以下は達成していますが、月別統計で見ると目標を大きく上回っている月もあります。

③ 不良の内訳を見てみると、最も多いのは寸法問合せ・作図ミスとなっており、この2つを重点的に来年度は活動いたします。

4) 活動内容

- ① 不良内訳で最も多い寸法問合わせのうち、特に発生頻度の高い5項目のチェックリストを作成しました。

1	最外形寸法は記入されているか
2	穴径は正しく記入されているか
3	面取り寸法は記入されているか
4	材質は正しいものが選択されているか
5	組図上の部品点数と製作個数は同じか

このリストが意識付けにつながり、チェックリスト内の不良発生の抑制に効果がありました。

- ② 図面出図の際には、4)-①にて上げたチェックリストを主とした自己検図を行い、図中にチェックマークを入れることをルール化して実行しています。
- ③ 4)-②の後に、上長による件図を行うことで、二重チェック体制化を図りました。
- ④ 月に一度実績確認の際に、メカ設計課全員で各自の発生した設計不良の詳細説明を行い、同様の設計不良が発生しないようにしています。

5) 今後の活動方針

今後も不良削減の方法を検討し、不良率削減を押し進めていきます。

8. 4 製造部 製造課活動記録

(1) 加工不良の削減

- ・2016年度の加工不良率は0.55%の実績で、目標(≤0.75%)を達成しました。(図1参照)
- ・加工不良の発生原因はヒューマンエラーが主で、慢性的に発生しています。2016年度はエラー事例分析から、図面確認ミスの防止の対策を行いました。

1) 不良発生の根本原因追及と再発防止

①不適合品報告書の作成

- ・客先チームおよび社内で発生した重大不良について、根本原因を追求し再発防止の対策を行い、作業の標準化を図りました。
- ・2016年度の不適合品報告書を13件作成し、情報の共有化を図りました。

②検査工程での発見不良のデータ集計とフィードバック

- ・加工忘れ、寸法公差外れ等々の発見不良を毎月集計し、加工現場へフィードバックを行いました。

2) ヒューマンエラーの対策

①図面がらみのミス防止に蛍光ペンチェック

- ・加工工程ごとに蛍光ペンの色分けをして加工を行う箇所に色付けを行い、図面確認ミスおよび見落とし等の図面がらみのミス防止対策を行いました。

②教育訓練と技能検定

- ・熊本県職業能力開発協会のものづくりマイスターの方から、普通旋盤と機械検査の技能訓練を計画し実施しました。
- ・技能検定試験には、普通旋盤の3級に2名合格し、機械検査の3級は1名が合格(実技のみ)しました。

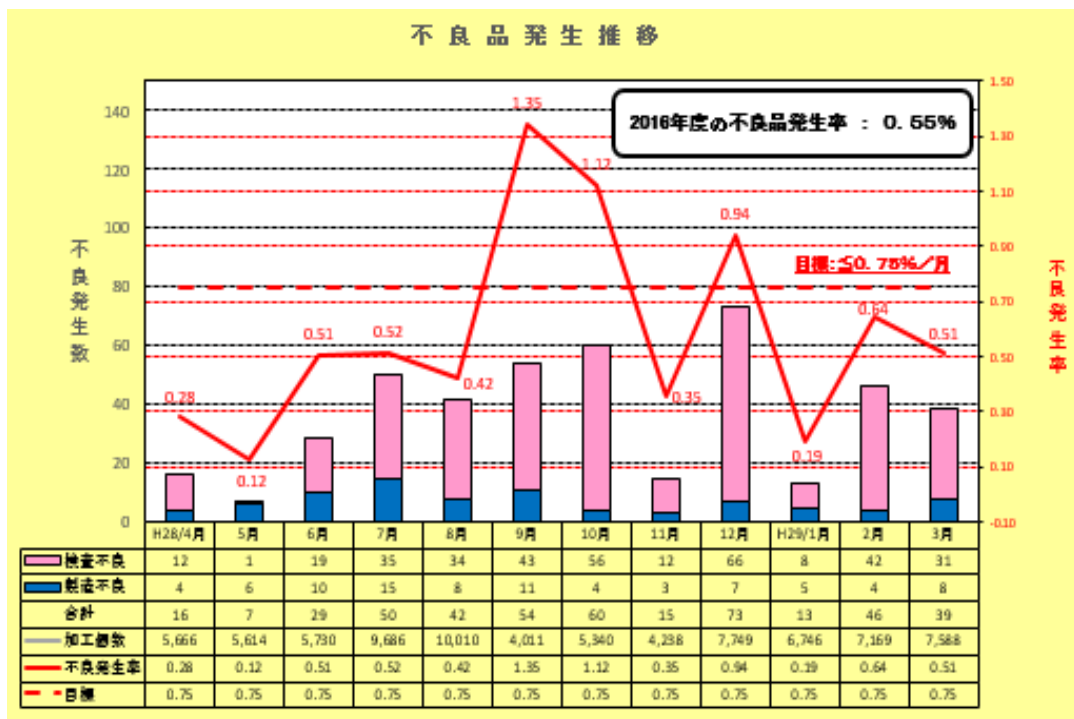


図1. 2016年度の部品加工の不良品発生

(2) 加工機械の稼働率向上

- ・2016年度の実稼働率は目標の70%に対し、実績は60%で未達成でした。(図2参照)
- ・昼休み時間、終業後の夜間および休日に機械を稼働させ、無人稼働の促進を図りました。(図3参照)

1) 加工プログラム入力時間の削減

①CAM設計の社内教育

- ・2016年度は新たに3名の教育を計画して実施しました。

②CADデータの取込み

- ・マシニングセンター(2台)とサーバーを接続し、CADデータを直接取り込めるようにしました。

2) 加工機械の無人稼働

- ・2016年10月から、昼休み時間および終業後の夜間および休日に機械が稼働できるように促進活動を開始しました。

3) 浮上油除去の時間短縮

- ・クリーナーの導入を3台展開しました。

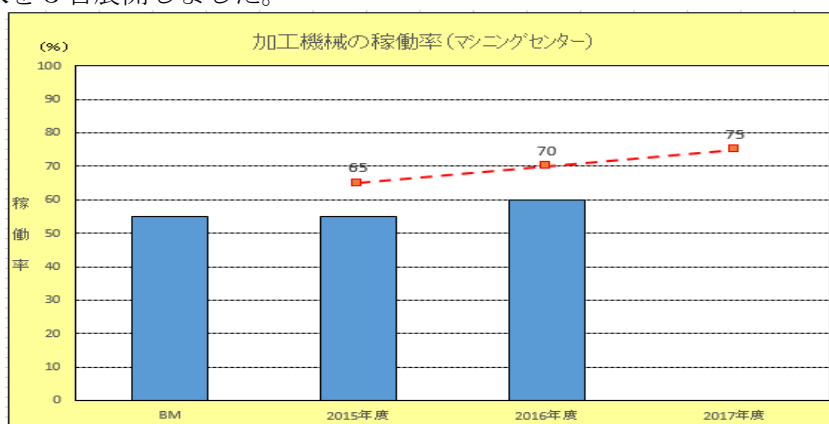


図2. 加工機械の稼働率遷移

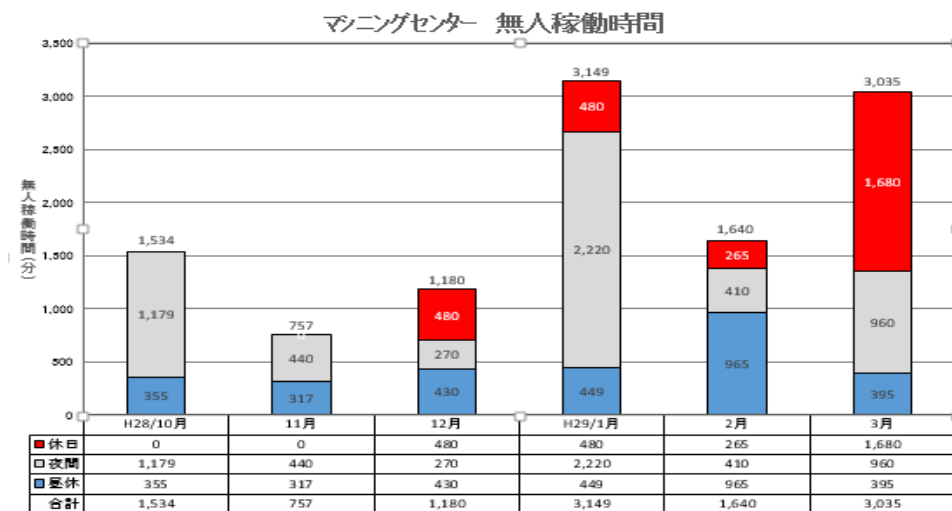


図3. 加工機械の無人稼働時間

8. 5 営業部 営業課活動記録

① 中期目標

社用車の燃費の向上についての結果報告

ねらい：エコドライブを心掛けた運転（急発進、急停止を無くす）を行い、燃費を向上させる。

燃費／結果

	アクア燃費(km/ℓ)	パッツ燃費(km/ℓ)
4月	30.1	15.7
5月	30.0	16.1
6月	27.3	16.5
7月	21.6	14.1
8月	22.9	14.8
9月	25.3	15.6
10月	26.1	16.7
11月	29.5	17.4
12月	33.3	17.8
1月	24.7	16.3
2月	26.8	16.7
3月	28.3	17.2
平均	27.2	16.2

上記の通り平均、アクア：27.2 km/ℓ、パッツ：16.2 km/ℓの結果となりました。

前年度 アクア：29.5 km/ℓ、パッツ：16.0 km/ℓ

結果：アクアが前年度より下回った結果となり、パッツは前年度より少し上回った結果となりました。

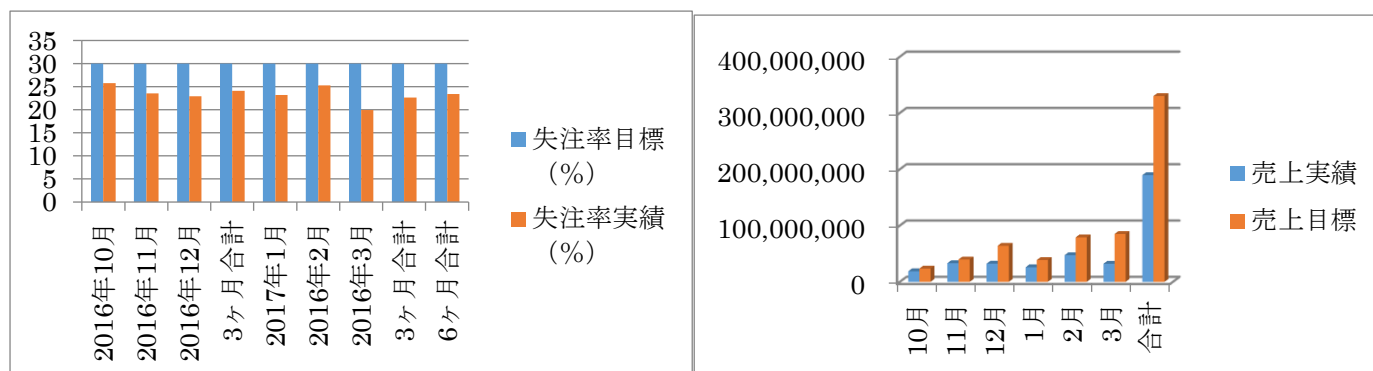
アクアは前年度が良すぎたところがあるので、全体でいくとエコドライブの心掛けで高燃費の結果になったと思われます。

② 長期目標

失注率の低減についての結果報告

ねらい：見積り件数と失注件数から失注率を調べ、失注率 30%以下にします。

失注率／結果



結果的には、失注率の目標は達成したが、売り上げは目標に対して未達成の結果となった。

この事から、来期は売上アップのためには見積り件数を増やす事と考え、そのためには訪問件数を増やす事が必要と考えました。

次年度の目標として、訪問件数を増やすために客先担当者との面談数を15人／月に設定して活動する事としました。

9. 環境関連法規等の遵守状況の確認および評価の結果

関連法規の遵守状況を10月にチェックしました。結果問題はありません。

なお、過去3年間にわたって、関係機関や近隣住民の方からの法律違反の訴え、苦情や訴訟等は発生していません。産業廃棄物については、廃棄時に manifests を完全に発行しています。

環境関連法令等の遵守チェックリスト

最新情報の確認：<http://law.e-gov.go.jp/>

法令等の名称		該当条項	適用される要求事項	アラオの遵守状況	
大気	フロン類の使用の合理化及び管理の適正化に関する法律		特定製品(業務用エアコン、冷蔵庫等)の整備・廃棄時のフロン回収・破壊	社内エアコンの定期点検、および簡易点検実施中	○
排水	水質汚濁防止法 排水基準を定める省令	第2条	特定施設	該当施設なし	—
			水質基準の遵守	工業団地内で排水を管理中	○
		第14条	事後時の届出	工業団地内で排水を管理中	○
排水	下水道法	第10条	下水道への放流	工業団地内で排水を管理中	○
		第12条	除外施設の設置		
悪臭	悪臭防止法	第7条	規制基準の遵守義務	該当施設なし	—
		第10条	事故時の措置と報告		
		第11条	自治体による測定		
騒音	騒音規制法	第5条	特定工場、特定施設を設置している事業所は規制基準を遵守	騒音は規定値内	○
		第6条	特定施設(施工令別表1)の届出	コンプレッサー 11Kw 2台 エアコン室外機 7.5Kw 13台	○
		第8条	特定施設の変更届(騒音が増加しない場合はこの限りではない)	(届出済)	○
振動	振動規制法	第5条	特定工場、特定施設を設置している事業所は規制基準を遵守	コンプレッサー 11Kw 2台 (届出済)	○
		第6条	特定施設(施工令別表1)の届出		○
廃棄物・リサイクル	循環型社会形成推進基本法	第11条	事業者の債務(廃棄物になることの抑制)		○
	廃棄物の処理及び清掃に関する法律(廃棄物処理法)	第7条	一般廃棄物処理業者は市町村長の許可が必要	許可証の写しを入手	○
		第14条	産業廃棄物処理業者は都道府県知事の許可が必要	許可証の写しを入手	○
		第15条 施行令8条	保管基準の遵守(表示、衛生管理等)	廃棄物置き場に表示設置	○
			表示: 60cm 角以上、種類、氏名、連絡先	○	
		許可業者に委託(一般廃棄物は許可証の確認)	紙屑、その他	○	
許可業者に委託(産業廃棄物は契約)	廃油、廃プラ	○			
多量排出事業者の削減計画提出・報告	○				
manifests 発行・返送遅延時の届出	廃油、廃プラ	○			

			マニフェスト交付状況の報告 もっぱら再生利用を目的の収集・運搬 業者に委託	熊本市へ報告 紙、鉄くず	○ ○
	資源の有効な利用の促進に關 する法律 リサイクル法	第 4 条	パソコンのリサイクル化	パソコン	○
	特定家庭用機器再商品化法	第 6 条	TV・洗濯機・冷蔵庫・エアコンの破棄	TV、冷蔵庫、エアコンの適正 廃棄を実施する	○
	使用済自動車の再資源化等 に関する法律	第 5 条	自動車の所有者の責務 自動車の廃棄・使用済自動車の引渡義 務		○
化 学 物 質 ・ 危 険 物	特定化学物質の環境への排出 量の把握等および管理の改善 の促進に関する法律（PRTR 法）	第 2 条	特定化学物質 （質量 1 トン以上、従業員 21 名以上）	PRTR の対象物質の使用は僅 少	○
	毒物及び劇物取締法	第 2 条	毒物または劇物の取扱	使用量が僅少	○
危 険 物	高圧ガス保安法	第 9 条の 2	圧縮アセチレンガス 高圧ガスの消費	使用量が僅少	○

10. 代表者による全体評価と来年への展望

10.1 取り組みへの評価

2016年度の環境活動についての評価は以下の通りです。

(1) 全体評価

二酸化炭素排出量は基準年に対して 63.4 トン削減でき、基準年比 73.2%の実績でした。環境に優しい設備機器の導入を心がけたりするなど、全社員の環境保全に関する意識が継続しているものとして評価します。また個々の重要項目については、電力、一般廃棄物、産業廃棄物、紙において目標をクリアしました。

ガソリンについては営業エリアの拡大などにより、使用量が増えました。今後の売上拡大を目標にした取り組みであり、省エネ運転や省エネカーなどの導入により、来年度以降目標達成を目指します。水使用量は基準年値は下回ったものの、目標達成はできませんでした。熊本地震の影響をうけて複数の社員自宅が断水になったのを補うため、会社の水道水を社員に開放したことがひとつの要因だと考えられます。

全体の課題としては目標達成できなかった環境項目について、原因を探り、原因をつぶし、達成のための取り組みを全部署・全社員で実施し、それを継続することにより全項目で目標達成できるように取り組んでゆきましょう。改善計画・改善実行がうまく進まなかった部署もありました。全部署員が部署目標達成する意識をしっかりと持つことが大切です。業務の忙しさもありますが、改善が進むことで忙しさも緩和されます。安全も確保されます。そのことをしっかりと認識した今後の取り組みを期待します。

(2) 設計開発部評価

設計業務の不具合による時間損失を削減するために、「図面不良 3%以下」の活動テーマで業務改善に取り組みました。結果はぎりぎり目標達成できたので日頃の取り組みを評価します。不具合件数上位の 3 件を 50%削減すれば、全体も半分になります。まずは上位 3 件の原因を見極め対策を打ち、取り組みを継続すればより良い結果となるでしょう。今後の改善活動を期待します。

(3) 製造部評価

不具合報告書の作成による原因の追究と対策の周知、不具合データの集計と公表、ヒューマンエラー防止対策の実施など徹底して加工不良を削減する取り組みを実施し、加工不良率 0.55%の実績で目標 0.75%以下を達成しました。部署員全員で不具合削減に取り組んだことを評価します。また技能検定合格を目指し技能訓練を行い、普通旋盤 3 級に 2 名の合格者を出したことを評価します。工作機械の無人運転時間の拡大への取り組みは、効率的合理的な仕事の仕方を確立し、売上向上、利益向上に直結します。無人運転の拡大への取り組みを大いに評価します。今後も更なる改善で不良率を削減し、技能検定の上のレベル合格を目指し、無人運転の長時間化に取り組まれることを期待します。

(4) 営業部評価

営業部では業務で毎日車の運転をします。エコドライブの活動は、積み重ねることで経費削減の効果が現れます。営業車の燃費実績を記録し、常にエコドライブを意識し、2 台共に良い燃費を維持できたことを評価します。引き続きエコドライブを続けるとともに、営業ルートの最適化などの取り組みをすると、さらに良い結果が期待できそうです。失注率低減の目標を達成したことは、日頃の考える営業ができたことであり評価できます。今後は日々の営業改善活動が売上高の向上、利益の向上に結びつくことを期待します。

(5) 環境関連の法規について

環境関連法規のチェックリストに基づき、それぞれの適合性をチェックし、現状問題の無いことを把握できています。ついおろそかになりがちな法規遵守の確認が几帳面に実施されていることを評価します。今後も継続し法規遵守企業であることを維持してゆきましょう。

(6) 周辺環境

2016年3月26日に会社周辺の環境清掃と環境汚染対応訓練を実施しました。30分ほどの清掃活動でかなり多くのごみを収集できました。周辺の環境美化に少しは貢献できたかと思えます。環境汚染訓練を実施することで、いざというときの対応のおさらいができ環境汚染を防止できます。今後も継続して実施してゆきます。今年度も周辺住民や周辺企業からの環境に関する苦情・訴訟等は発生しておりません。また関連官庁からの注意・指導も受けておりません。

10.2 2017年度への展望

熊本地震からの復旧も少しずつ進み、復興に向けて熊本県内各企業も本格的に活動を再開する中、業務量も多くなることが予測されます。そこで2017年度はアラオの経営資源の100%有効活用を経営方針と定め、各部門の改善活動を通して、環境に優しい企業活動を推進します。業務拡大を見込める状況の中、二酸化炭素の排出量など環境指数を拡大させない意識と工夫を全社員で共有維持し、増収・増益・環境適合をめざします。

EA21 2016年度（平成28年度） 環境活動レポート

株式会社アラオ



住所 : 〒861-4144
熊本県熊本市南区富合町釈迦堂388



電話 : 096-358-7010



FAX : 096-358-8045

発行日 : 2017年（平成29年）11月1日

発行者 : 環境委員会

ご意見、ご感想は弊社のホームページよりお送りください。

<http://www.araotech.jp/>